

街

支部だより 2015. No. 1



黒田 歩さん (小学校6年生)



黒田俊太郎くん (小学校3年生)



黒田ちひろちゃん (小学校1年生)

北海道建築士会札幌支部

「建築士の日」イベント企画

札幌の景観

西区・手稲編

バスツアー



— 北海道建築士会 札幌支部 主催 —



●札幌支部まちづくり委員会 往田 協子・大茂谷優子・岡島 亜季

「建築士の日」記念イベントとして、平成26年7月5日（土）に市民の皆様と札幌景観資産・札幌市都市景観賞受賞作品を中心に、琴似に屯田兵が入植して140周年の節目に北海道開拓の歴史を感じる施設の見学会を札幌市景観アドバイザーであり、NPO 法人歴史的・地域資産研究所機構代表理事の角幸博氏に解説を頂き、52名（非会員33名・会員17名・講師・記者）の参加を頂き行いました。

見学施設紹介

①琴似屯田兵村兵屋跡

(旧133番清野家)

西区琴似2条5丁目

国指定史跡

建設年：明治7（1874）年

構造：木造

琴似屯田村兵屋（旧133番清野家）
外観

- ・建物はオリジナルですが、もとあった場所から移築されて、屯田兵の

歴史を伝えるものとして史跡に選ばれています。

- ・琴似村は屯田兵村の第1号で全道には明治38年までに37の兵村がありました。屯田兵は、北の防備と農業をになうもので、ロシアのコサック制度の北海道ヴァージョンと言えます。
- ・屋根は桎葺きで、薄いため反ったりしています。今この桎を復元しようと思うと北海道には職人がいないので東北から呼ばねばならず維持管理費が高くなってしまっています。
- ・この建物は第1中隊の208戸のうちの1戸です。第133番で宮城県亘理郡出身の清野清次郎の住宅として与えられました。
- ・本来はこの何十倍もあったと思われる畑がボランティアの方々によって維持されていて、昔の生活を維持しようとしているところが素晴らしい。

琴似屯田村兵屋（旧133番清野家）
外観と畑

・屯田兵屋は最初、黒田清隆が二戸建てにしようといいましたが、ステータスを高めようということで一戸建てとなりました。今では粗末にみえるかもしれませんが、当時の庶民の暮らしからすれば格段に良い建物でした。

- ・黒田はアメリカの技術者の話を聞いて北国には洋風住宅が合うと考え、それにひたすらこだわっていたようです。大通りにあった洋風官舎では上り框がないアメリカと同じように靴のまま生活する文化住宅が建てられましたが、ドアの前で皆、靴を脱いで生活していました。ライフスタイルまでは、なかなか変えることができなかったようです。
- ・窓は「むしこ窓」といい、本州の技術のもので同じ幅の板がスライドして開口を調節します。
- ・本州では合掌造りか和小屋の在来工法ですが、この建物の小屋組は両端部が和小屋で、中央の4本はトラス組となっており洋風の構造です。しかし、畳を敷いて囲炉裏、煙出し、土間のある在来の農家住宅で、生活スタイルは和風になっており、いい具合に落としどころを見つけた和洋折衷といえます。なお、ここは4,5年前に改修され、現在、状態が良くなっています。



琴似屯田村兵屋（旧133番清野家）内部
小屋のトラス組

- ・ 囲炉裏は主には暖をとるためでしたが、煮炊きにも利用され、火力を高さで調節するため囲炉裏上には自在鉤がついています。



琴似屯田村兵屋（旧133番清野家）内部
囲炉裏と自在鉤



琴似屯田村兵屋（旧133番清野家）内部

- ・ 外壁の外部側は下見板で、内部側は断熱性能を考慮して土壁です。恐らく、ものすごく寒かったと思いますが、それでも本州から来た人達にとっては、小さい窓というものは馴染みがなく、大きな開口の縁側的な空間を設けて生活していました。

- ・ 流しは座り流しとなっていて関東系の台所です。関西では土間に立ち流しです。座り流しは女性にはつらいので大正時代には立ち流しへと改良されました。



琴似屯田村兵屋（旧133番清野家）台所

② 琴似屯田兵屋 （旧140番佐藤家）

西区琴似1条7丁目
北海道指定有形文化財
建設年：明治7（1874）年
構造：木造

- ・ 現代風の表現だと1LDKで、板の間、少し上がって床の間付きの部屋がある。



琴似神社境内



琴似屯田兵屋（旧140番佐藤家）外観



琴似屯田兵屋（旧140番佐藤家）外観



琴似屯田兵屋（旧140番佐藤家）内観

③ 奉安殿

（琴似神社境内）
西区琴似1条7丁目
建設年：昭和6（1931）年
構造：札幌軟石造



奉安殿（琴似神社境内）

- ・ 戦前の小学校には必ずあり、内部に御真影が納められていて、登下校の際、拝する習わしがありました。これは琴似小学校から移設されたもの。
戦後GHQから全て撤去するようにと命令がでました。しかし、道東にはこのように残っているものが結構あります。神殿風や煉瓦造などいろいろなものがあり、洋風のデザイ

ンのものは大目にみられたのかもし
れません。

④サッポロ珈琲館本店

(旧北海道工業試験場第二庁舎)

西区八軒1条西3丁目

建設年：不明

構造：鉄筋コンクリート造

- 工業試験場の第二庁舎として昭和28年に建てられたと伝えられていますが、分電盤に昭和15年と書いてあり築年については再確認が必要です。



サッポロ珈琲館本店 外観

3

- 外観のデザインはシンプルな造りとなっています。
平成元年より喫茶店として再利用されています。歴史的建造物で再利用された喫茶店としては割合早い方といえます。喫茶店になる前は地域の集会所として使われていました。
- 昔の役所の建物はデザインを凝らせるところが少なかったが、この建物では階段室の形状や手摺、階段そのものなど、恐らく少ない予算の中で、デザインを凝らしたものと思われます。
- 屋上が陸屋根になっている為か、ドレインパイプがむき出しになっています。このほうがメンテナンスしやすい利点があるかも知れません。
- 内部は中廊下型で、欄間から鉄筋コンクリートの大梁がアーチ状になっていますし、柱型も確認出来ます。
- 当時は構造計算の出来る人が少なく、試行錯誤でやっていたようです。



サッポロ珈琲館本店 2階廊下

⑤れんがの館

(旧日本食品製造合資会社工場)

西区八軒1条西1丁目

札幌景観資産

建設年：昭和4(1929)年

構造：レンガ造



れんがの館
(旧日本食品製造合資会社工場) 外観

- 小屋裏のトラスの斜め材は恐らくあとから入れたようです。材が細く、工場ということで立派なもの使っていないのではないかと思います。ハサミ束なので細くてもバランスをとっています。鉄のバーで後から補強もしています。



れんがの館
(旧日本食品製造合資会社工場) 内部

- 消防法のため、両側に排煙口がついています。工場だったので創建

当初から高窓がついています。

- 歴史的建造物を再利用して残す場合、どこまでオリジナル部分を残すかが課題になりますが、ここは潔く外観のみ残し窓等も直しています。これは喫茶店だった時代にすでに内部は直されていました。
- 他にも日本食品製造合資会社の工場や倉庫、事務所がありましたが壊されました。また壊された倉庫は「コンカリーニョ」の愛称で親しまれた演劇集団が利用していた建物でしたが、保存運動が叶わず現在、コンカリーニョは全く新しくなりました。この建物も再開発のため壊す話がありましたが、住民の熱意により保存されました。他の関連建物と一緒にマンションの一部に吹抜空間を作って保存する案もありましたが、結果としては、このレンガの建物だけがマンションのコミュニティホール、いわば住民会館として残ることになりました。管理運営の為、三角山放送局が入っています。ここは、そういった歴史、住民運動と開発者を含めてなんとか残した事例として評価され、札幌景観資産の第一号となりました。



れんがの館
(旧日本食品製造合資会社工場) 内部

⑥五天山公園

西区福井

平成21年4月オープン

- 昭和28年から平成2年まで採石場でした。
- 西野地区はかつて西野米の産地で

した。棚田が広がっていて、それに水を運ぶのに水車が使われていました。水を運ぶのと脱穀のために140基の水車があり、公園内に設置されている地図でどこにあったかも確認できます。水車小屋は地元の住民の働き掛けで復元されたもので、実際に脱穀することもできます。



五天山公園



五天山公園 水車小屋

⑦手稲パラダイスヒュッテ

手稲区金山

建設年：大正15(1926)年

構造：木造

設計：マックス・ヒンデル(スイス人)

- 北海道帝国大学のスキー部設立15周年記念行事の一環で医学部の大野精七教授を中心とした集まりで、ドイツ人のブプラー教授が建設地を決め、ヒンデルが無償で設計を行い、予算がなかった為、建具も寄付して建てられました。丸太材は敷地のトド松を180本切って使いましたが、丸太の径が大きくなかった為さらにカラ松の丸太を追加しました。藤川大工と工事契約はしたものの、作業困難の為、契約不履

行となり別の大工が施工した記録があります。大きさ5間×3間の一般的なスイス式ヒュッテです。



手稲パラダイスヒュッテ 外観



手稲パラダイスヒュッテ 外観

- 1928年、秩父宮殿下がパラダイス・ヒュッテに来られ、市民が使える山小屋をつくりたいというご希望により空沼小屋が建てられました。翌1929年には高松宮殿下が御来所しました。学生達が料理を作り、振る舞ったという記録が残っています。
- 1987年7月ログの腐朽が激しくなり閉鎖され、1992年2月に当時の北海道工業大学の有江教授を会長に再建期成会が発足しました。しかし1992年4月、人知れず静かに倒壊したことがわかりました。同じ場所に再建することができなかった為、約400m上の今の場所に1994年、外観復元したものが再建されました。
- 大倉山にある札幌ウインタースポーツミュージアムにヒンデルが描い

た設計図が残っており、それを元に北大OBの山本氏が無償で設計しました。1階と2階はヒンデルの設計そのまま、ストーブもほぼ昔の姿に復元されました。地下にセミナールームを新設しパワーポイントなどを映すことが出来るモニターもあります。2階の寝室は30名位収容出来ます。

- 再建の際は建築基準法の制限によりログキャビン構造と出来ない為、在来工法で建て、丸太を割って内側と外側に貼付ける方法をとっています。
- このバスツアーでは、こちらで昼食(弁当)を頂きました。



手稲パラダイスヒュッテ 内部1階



手稲パラダイスヒュッテ 内部地階

⑧山口運河

手稲区星置

- 山口運河は物の運搬のため花畔から銭函の間、約14.5キロの一部です。維持管理が大変だったことと鉄道の発達により7.8年で役割を終えました。札幌市内で運河と名のつく唯一の場所です。ゾーンが3つからなり、地元では運河を使っ

たまつりがとてもにぎわっています。そのときには運乗船という船が浮かび、中高生が歌や吹奏楽を披露します。すいかの早食い競争や直売所などもあります。まつり前には環境保全活動として高校生と住民で川を清掃します。遺構が市民のさまざまな営みと関わって残っている貴重な存在です。



山口運河



山口運河

⑨北海道科学大学バス待合所

手稲区前田 7 条 15 丁目
第12回札幌市都市景観賞
構造：鉄骨造
設計：佐藤孝教授 他



北海道科学大学バス待合所

・現在は薬学系と工学系が一緒になっ

た大学です。図書館など優れた建物があります。このバス待合所はガラスと鉄骨でできた優れた建物として都市景観賞を受賞しています。

⑩Café lunch 斉藤ファーム

(旧三谷牧場牛舎・サイロ)

西区発寒 8 条 13 丁目 1-13

札幌景観資産 3 号

建設年：昭和 3 (1928) 年

構造：レンガ造



Café lunch 斉藤ファーム
(旧三谷牧場牛舎・サイロ) 外観

・三谷牧場について

元々は三谷牧場の牛舎とサイロでした。牛舎は上手にリニューアルされて喫茶店になりました。

かつては豊かな農地で、エドウィングダンが提唱した農場経営スタイルに共感した人達が集まってこの発寒を中心とした地域が牧畜盛んな地域として発展しました。三谷さんの牧場の跡地が今は寄付されて公園になっています。

・斉藤ファームとして再利用

この建物は全て取壊す話がありました。元牛舎は少し元の形から切り取って残されています。札幌市の助言で、記念館にしたかどうかという話もありましたが、まとまらずそのままの形でしばらく残されました。現在は向いの老人福祉施設の所有となっています。

そこに入居されているお年寄りの方々がランチもできる会館としてはどうかとの構想もあったようですが、費用面などの理由で立ち消えとなりましたが、斉藤ファームさんがここで

営業したいと希望され、結果として残ることになりました。

内部は牛舎の雰囲気も残っていますし、腰折屋根の構造体を見ることが出来、光の入れ方が上手で雰囲気が良いです。

実はかつて母屋もあり、その建物は北 1 条西 1 丁目にあった病院施設を移築した洋館でした。建物の中の色ガラスがとてもきれいでいい建物だったのですが解体されました。当時は札幌市にも相談され、角先生も景観アドバイザーとして関わったのですが、個人の力で維持するのは難しかったようです。

・元サイロと牛舎について

サイロのレンガの積み方は、「小端空間積み」です。考え方としては空気層がとれ、断熱効果があります。



Café lunch 斉藤ファーム
(旧三谷牧場牛舎・サイロ) 外観

腰折屋根という言葉はよく間違われます。マンサード屋根は 4 方向腰折、寄棟屋根を腰折れにした形の屋根です。このように切妻屋根を腰折れにした屋根のことを本来は、ギャングレルーフと言います。大正時代に和訳する際に間違ったようです。小屋裏を利用しやすい利点があります。建物の使用目的としては、1 階で牛馬を飼い、2 階に冬場の飼料を入れるものです。サイロが金輪で押さえられているのは、飼料から出るガスの圧力によって、膨らむのを抑えるためのもので、後から設けられたものと思われれます。なお、石造のサイロ

も同様な金輪が設置されている例が多くあります。



Café lunch 齊藤ファーム
(旧三谷牧場牛舎・サイロ) 外観

⑪あんとるぽ一館

(旧遠藤醸造店事務所)

西区宮の沢2条2丁目

建設年：明治44(1911)年

構造：石造・木骨石造混構造



あんとるぽ一館
(旧遠藤醸造店事務所)

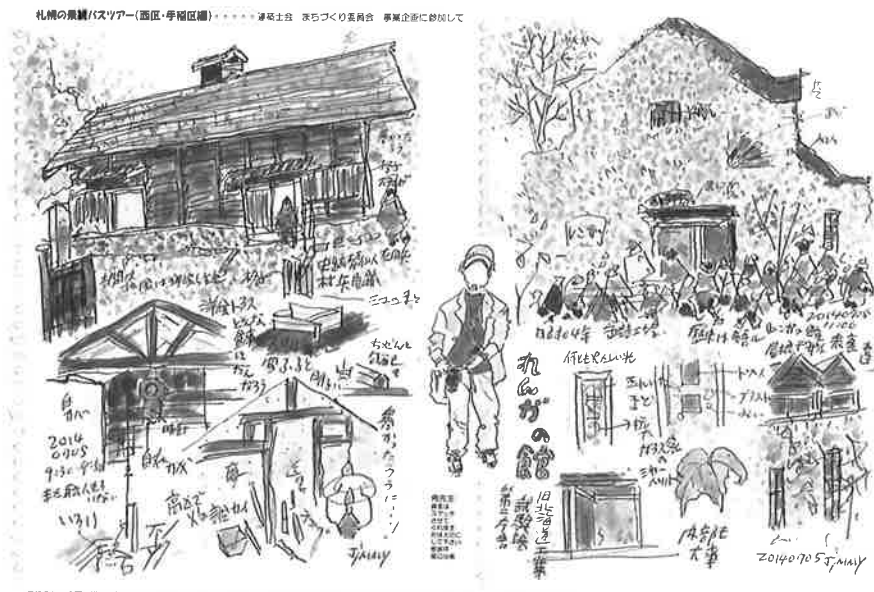
・旧遠藤醸造店という建物が建てられ、醸造店としての営業が終わり、あんとるぽ一館というレストランになりました。昭和63年にはさっぽろふるさと文化百選にも選定されましたが、平成2年に解体されました。その材料を石屋製菓さんが買取り、移築復元して現在使われています。フレンチルネッサンス風の石貼の建物ですが、部分的にはかなり当初のデザインとは変わり、元の石が使われただけでも言えます。元の建築は1階が本石造、2階が木骨石造と構造的にも興味深い事例でした。昭和53年位からずっとレストランとして使われていました。基本的には復元とは言えませんが、材料そのものが再利用された例に

なります。

参加者の感想

- ・パラダイスヒュッテは初めてなので、とても良かったです。個人では行けない所なので。
- ・パラダイスヒュッテ、自然の景観が楽しめました。屯田兵屋も興味深く、暮らしぶりなどを想像しました。
- ・普段聴けない専門家のお話を聞きながらの見学はとても興味深かったです。建物の保存、再建は難しいのですね。当然かもしれませんが…
- ・角幸博先生の説明の熱意が伝わってきます。建築志望の学生だけのツアーも授業としてあって良いと思います。
- ・初めて行く場所ばかりでしたが、こういった歴史的建造物を観るのは、もともと好きだったので、とても楽しむことができたのでいい思い出になりました。
- ・知らないものが多くたいへん有意義でした。また準備された建築士会の方々に感謝致します。
- ・先人達の努力と苦労を無にしないよう後世に残していく活動が続けなければならぬと改めて思いました。北海道、札幌は歴史が浅いのに、昔の立派な建築物を大事にしない傾向にあり、政治家への訴えが必要です。
- ・大変楽しい時間を過ごすことが出来ました。勉強になりました。ただ廻りの騒音で角先生の説明が聞こえにくい時があったのが残念でした。
- ・身近にありながら初めて見る背景、歴史を知る建物、施設も多く有意義な時間を過ごすことが出来ました。
- ・手稲パラダイスヒュッテではクマゲラの姿と鳴き声を初めて見聞きし、山口運河ではクルミ、グミ、カモ、アメンボなど建物以外にも楽しいことがありました。スタッフの方には大変親切にして頂きました。ありがとうございます。
- ・景観に活かされていたかはどうかは、判断難しかったが、普段見過ごしてしまう所を解説付きで見学出来て楽しめた。時間にゆとりがあって良かった。齊藤ファームはまさに北海道!!北海道のイメージそのものでした。
- ・周囲の建物も合わせた保存の仕方がのぞまれる。古さだけが孤立して見える。

参加された建築士会会員の渡辺治美さんが描かれたスケッチ



鳥居らしい建案 初めに描かれて 遠近に 北海道の建築景観に描ける 美しい絵柄で、遠くを望む 景観を描く 夢に託した風景を must be!

札幌市資料館 リノベーションアイデア コンペティション

に応募して

札幌支部まちづくり委員 中嶋 奈弓

まちづくり委員会では、『住みやすいまち・住み続けられるまち』という言葉に象徴される、コミュニティ醸成や活性化の方策といったまちづくりの方向性と、自然や歴史的建築物に代表される、風土にねざした景観・環境資源を守り育てて行こうというまちづくりの方向性と、二つの軸を平行に、あるいは交差させながら、様々な取り組みを行っています。

そうした取り組みのなかで、一般市民向けに好評の『景観バスツアー』の中央区編で取り上げた札幌市資料館（旧札幌控訴院）が、札幌国際芸術祭2014において『リノベーションアイデアコンペティション』の対象となることを知りました。

①純粋に開拓期の歴史的建造物としての魅力のほか、②建物の来歴と使われ方の変遷③市の中心大通公園の端に位置し、法曹地区と文教地区を併せ持つ現在の地域特性④石・レンガ・コンクリートによる複雑な構造⑤札幌軟石に関する技術史⑥法的規制による耐震化と文化財政策の関係⑦自治体の経済問題など、他に類のない多くの切り口を持った建物です。コンペ提出に至らないまでも、格好のワークショップ題材であろうとのことで、委員会の有志でスタディを開始しました。

課題の抽出(2/15)

手始めに、一般参加者も募り、リノベーション素材という視点で改めて現地を訪ね、建物形状や用途の歴史的な変遷、現在の使用状況・評判等について指定管理者にヒアリングしました。もともと正面エントランス側は役人の為の空間であり、裏（西側）に木造の建物が渡り廊下で繋がっていて、一般の人々はそちらから法廷に出入りしていたこと。全国で8箇所あった控訴院のうち名古屋と札幌だけが現存するが、札幌は寒冷地のためつくりが特殊だったこと。現在2階はいろいろな文化サークルの作品の展示場として人気が高く、リピーターも多いということ。ただし、利用者は目的の会場のみに出入りし滞在時間は短いこと、などが判りました。

その後建物2階にて、第一回ワークショップを開催しました。

そこで課題として、『正面性の強い建物と側面や背後の緑地側とのギャップ』『大通公園のポテンシャルを引き込む方策』『アート系展示場としての需要の高さと資料館という名称との不整合』『有効活用に必要なバリアフリーやアクセス改善、電気機械設備、耐震性の担保』等の点が議論されました。

コンセプトワーキング(3/4)

第一回ワークショップでの議論をもとに、活用方策案について、各自5W1H（内容、目的、エリア、対象者、季節や曜日・時間）のカードと図面やスケッチにまとめ、コンセプトの議論に臨みました。事前にメンバーが現況図をCAD化したことで各自の準備に弾みがついたのは、図面を見るとつい手が動いてしまう我々建築士の性でしょうか。

とはいえ、メンバーもアトリエ設計事務所、コンサルタント、建設会社、サインやインテリア系デザイナーまで専門分野が幅広いため、参考事例や建物イメージなどをその場でタブレットに表示して共有したり、サブカルの話で盛り上がりたりと、普段なかなか得られない時間をすごしました。年度変わりで忙しいにも拘らず議論は盛り上がり、この時点で『提出を目指す』方向に大きく傾いたと思います。

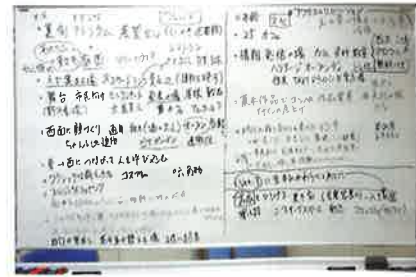
- この日に決めた大枠の方向性は、
- (1)札幌の歴史的建造物と文化芸術を市民や来訪者にインフォメーションする、移動と活動の拠点とする。
 - (2)西に免震地盤を造り曳き家して空いた東側に大通公園の人々やにぎわいを引き込む仕掛けをつくる。
 - (3)機能を補完する新棟と地下建設。



見学会とヒアリング



ワークショップの様子



コンセプトワークの記録

の3点です。

次の全体会議では施設各階平面プラン、外構イメージ、ソフト方策を出し合い、提案タイトル（施設名称）で議論を重ね、シート8枚の構成案と分担、大まかなスケジューリングまで決めました。その後は、メールでやり取りしながら各自作業を進め、全体会議に持ち寄ってブラッシュアップを重ねました。曳き家の可能性とコストについての技術的な検討、シートやロゴのデザインや色校正、写真の出典確認など、提出直前には全員ができることをやり尽くして、何とか締め切りに間に合わせました。

1 コンセプト（右上）

現状の問題点に対し6つの目標を掲げて、コンペの評価項目である『文化・芸術』『創造性』『公共性』『アーカイブ』『技術』とそれぞれの関わりを表しました。

2 PORT（右中）

本提案の主題である『拠点』をPORT（港）という言葉で表現し、市内に散らばる有名な、あるいはかくれた歴史的建造物相互を繋ぐさまざまなアクセス手段（乗り物）の結節点とすることを表現しています。

委員会でこれまで学んできた、『エコミュージアム』や『まちのたから探し』といった考え方も取り入れ、『ヘリテージ・オープンデー』や『各種団体・学校との連携』も提案しています。

3 提案イメージ（右下）

資料館のファサードはそのままに大通公園方向からの視認性や一体感を高める立体的な前庭と、そこから本館地下を経て導かれる西側の施設の全体イメージです。交通動線を西に集約することで、資料館の風格ある建物の正面性を生かしたダイナミックなランドスケープとしています。



しませんが、『アイデアコンペ』である点と、建築士会の名に恥じない技術的提案をすべきという思いで、思い切って提案しました。

かつて免震レトロフィットが検討され、コスト面で実現しなかったようですが、曳き家と免震地盤と地下駐車場を組み合わせることで、貴重な建物の価値が再生すると考えます。

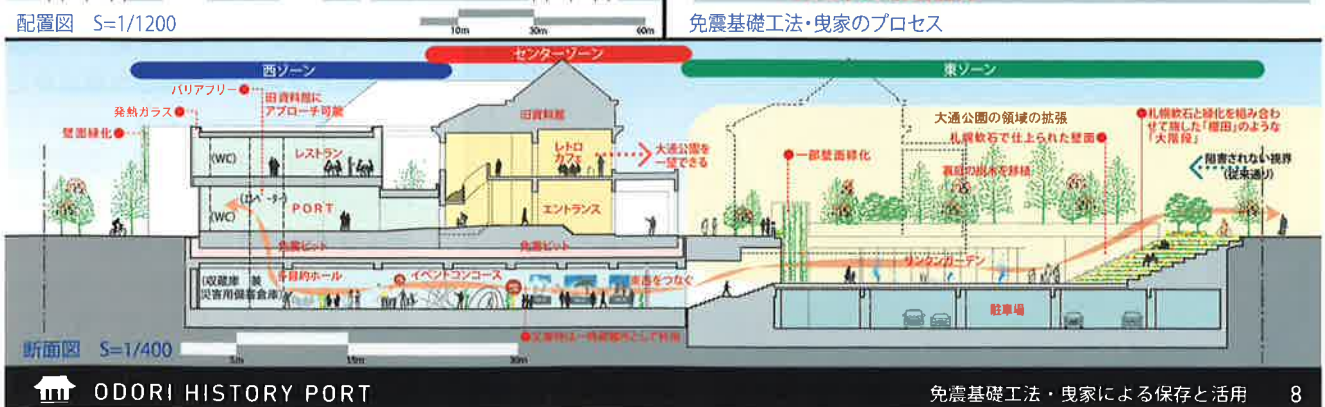
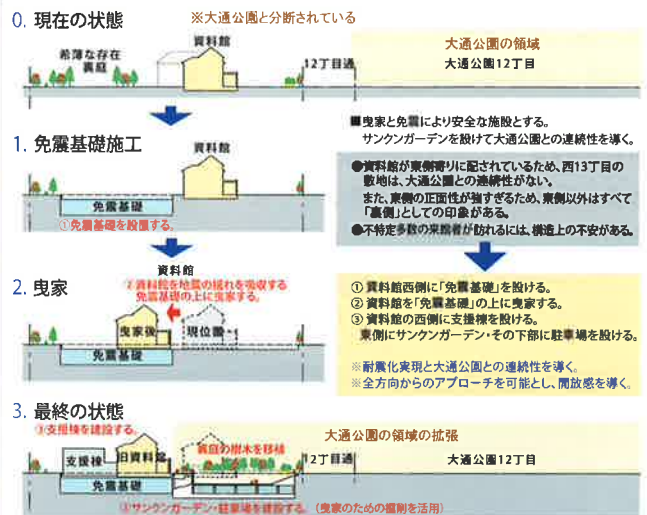
おわりに

建築士会（札幌支部）でのコンペ参加は初めてと聞いています。実際、全員がクリエイターでありながら職場どころか、業種も自由になる時間も違うメンバーが集まって、1つの案に絞り込み、全員が納得する形で提案書をまとめる、ということは奇跡に近いかもしれません。今回のコンペは施設プランニングやデザイン



を競うのではなく、活用のアイデアを問うものだっただけに、日頃の委員会活動のなかで、この街で自分たちに何ができるかを問い続けてきた共通の問題意識が、参加を可能にし

たのでしょう。審査の結果最終選考に残り、残念ながら受賞は叶いませんでしたが、支部や委員会の実績として、今後のこうした取り組みの礎となることを願っております。



青年のページ

青年委員会 HP : <http://h-ab.com/sapporo/seinen/> 青年委員会のブログ : <http://hokkaido-sapporoshibu-seinen.blogspot.com/>

都心ルネッサンス ―氷点のまち 輝くみらい―

札幌支部青年委員会 菊地 義紀

2014年9月26日(金)

北海道建築士会全道大会旭川大会「青年サミット」開催！ 「あさひかわの今 ～今の旭川を感じ、みらいに何が必要か～」

II 昔の賑わいを取り戻すため…。日本初恒久的歩行者天国の平和通り買物公園、生まれ変わった駅、それらを中心とする周辺開発もほぼ終了し、都心の再スタートを切った旭川。しかしながら「人で溢れる都心」の姿はまだ見えてきません。何が足りないのか…？ということで全道各地から100名を超える青年建築士が集結し旭川について語り合いました。

―Prima face―

駅前、緑の景観。新旧混在の街並み等、違う顔を持ちつつも旭川を表現している4つの地区（買物公園・銀座商店街・神楽岡地区・旭町地区）にグループ毎に分かれて“まちあるき”となりました。

私は「買物公園」のグループでしたが、改めて歩き考えてみると小学生時代に見た賑わいのある買物公園

の面影は一切ありませんでした。途中で街並みに関するクイズを解きながらという場面もありましたが、全ての回答は「スマホ」で解決!!ということで改めて時代の素晴らしさに気づき、逆に思考能力は退化しているのだと考えてしまいます。

このようにコミュニケーションを深め、自らの美脚と美肌と客観的な眼で、それぞれの「あさひかわ」を感じ取りました。

―Seconda face―

都心再生へ旭川に必要なものを提案するための“ワークショップ”では、4地区の意見を持ち寄り、再編成されたグループで熱心な議論が交わされました。

最初にそれぞれが歩いて感じた「良いところ」「悪いところ」の情報を端的に発表し、旭川が持つ4つの顔を全員が理解・共有をしてから、旭川に何が必要かを話し合いました。

最後のグループ発表では「人を呼び込むための魅力ある素材が“点”



でしか存在していないため、それらを繋ぎ“面”として発信、また核となるランドマークをつくり集客力を増す発想が必要」等、多くの意見が出されました。また具体案としては「商店街を結ぶ交通網（地下鉄・市電・共通駐車券）を整備する」、「屋形船で川のまちをアピールする」等、更には「家具づくりの技術を活かし、スカイツリーを超える木造タワーを建てる」という非現実的な意見は流石に青年ならではの発想力でしょう。

最後は、（一社）北海道建築士会 長谷川常務理事の総評で「ばかばかしい発想でも、仲間と議論すること



で見えてくるものがある。このような会を大事にし、是非来年にも繋げ

て頂きたい」と、ありがたい言葉を頂きました。

2014年 9月27日(土)

北海道建築士会全道大会旭川大会「C分科会（青年委員会）」開催！

「あさひかわの未来 ～楽しく賑わう「都心ルネッサンス」を描く～」

旭川で現在再開発が進められている北彩都地区の一角に、青年建築士の目線で旭川の未来に求められているものを企画・提案しようというワークショップが行われました。

まず初めに趣旨説明、旭川市の紹介並びに前日開催した青年サミットの報告がありました。そして本題のワークショップですが…

- ①キャッチコピー
- ②コンセプト
- ③ターゲット
- ④施設概要

以上の企画書作成の他に「配置・平面計画」、「イメージパース」の作成までを約80分という、ありえない時間で行いました。

私たちの4番テーブルは「川沿い（リバーサイド）…井上陽水？」と「北彩都」をかけまして『リバー彩都あさひかわ』というキャッチコピーを掲げ、観光案内所を兼ねた市民及

び観光客の体験・参加型複合施設というコンセプトで、子育て世代をターゲットとして、高く盛土した地中に水族館、丘の上にはものづくり体験ができる工房やショップのほか、憩いのテラスなど自然景観を活かした施設を作るという提案をしました。

他のテーブルからも創造性豊かなものばかりで、このように個性のぶつかり合いから一つの作品を導き出すという取り組みが、それぞれの職場や支部活動に活かされることは勿論、新しい仲間たちにも伝わり、継承されていくことを願います。

—Fine—



小樽天狗山トンネル見学会 を終えて

まちづくり委員会・交流委員会 佐々木正行

昨年来より何かと企画を練り、トンネルの見学を行おうと決め、小林峠の見学の計画を進めていたところ現場の諸事情により出来なくなってしまい、さて次は何処がいいものかと考えていました。そんな時、支部会員の勤務先が小樽の天狗山にて高速道路のトンネル工事を行っているとの情報があり、即時にそこが良いと見学会を実施致しました。

企画の主旨などを考え実施に至りました次第であります、当初の趣旨文を記載します。

本件の企画は、札幌支部の見学会事業として案件を提出するものです。

トンネル工事の見学は、建築を主とする建築士会の会員、建築に携わる関係者の方々に於きましては、土木工事の見学は、興味のある事業であると考えました。

会員の皆様、またその家族、学生さんと老若男女問わず、見学会に参加出来ますよう取り組んで行きたいと考えております。尚、今回は子供さんの参加も予定しており、将来のある学生さん、お子様の興味も持てるような見学会にしていきたいと思っております。

何とぞ本件の企画にご賛同して頂けるよう、お願い申し上げます。

見学の趣旨どおり学生さんの参加やお子さんの参加を期待していましたが、夏休みの終盤の日程となり、なかなか思うように人数が集まりません。結果22名の参加にて行いましたが、始まってみればちょうどいいかなと思われる参加人数でした。

札幌駅北口にお昼時に集合し、参加者思い思いの場所にて中華弁当（すすきのの中国料理店のご協力により安価にて大変美味しいお弁当でした）の昼食を済ませバスに乗り込み、午後12時30分に出発、途中休憩

をとり現地に予定通り14：00に到着。早速、インフォメーションセンターにて現場の関係者の方々より説明を受け、いざ！トンネルへとヘルメットを着装、長靴を履き一行は出陣となりました。

インフォメーションセンターで、NEXCO東日本小樽工事事務所様並びに安藤ハザマ・佐藤工業特定建設工事JV天狗山トンネル作業所様のご厚意により、大変わかりやすくご説明いただきました。ビデオの上映も有り結構な時間でした。



インフォメーションセンターでの説明



トンネルへの見学前の専門的な説明



◀トンネル入口の神様の祀りもの



入口はこんな風でした▶

トンネルの入口付近にて、工事の機械やトンネル工事の進め方のご説明を受け、実際に現場の重機や施設を目の当たりにし、私たちの建築のものとは、ちょっと違うなとの思いで聞いていました。

トンネルの入口に神様への祀りものがあり、トンネルにまつわる昔ながらの言い伝えを聞き、今でも神事は怠る事無く現場は進んでいくのだと感じました。

トンネルの中に入り、思ったより暑くも無く寒くも無くちょうど良いくらいの気温で、隅々まで眺め、また現場の方への質問が飛び交っていました。

トンネルの中へ約500m程進み、水が出水している場所までたどり着き、そこで引き返す事となりました。現場の最先端の場所、いわゆる「切り羽」と呼ばれている所までは行けませんでした。後300m奥へはきつかなとも思っていました。

トンネルの中は思っていたより明るかったのが意外で、歩きやすかったのです。当日は、現場作業が午後から休止にて見学へのご協力を頂き申し訳なく思いましたが、だから人がいなくて歩きやすかったのだらうと思いました。現場の監督さん方は、工事が終わるまで小樽の住人として働くそうです。何となく「秘密

のケンミンショー」みたいな感じを受けたのは、私だけだったでしょうか。（ちょっと不謹慎でした）

参加者の方々も装備がなかなか手慣れた感じでトンネルを出てきました。出たところで記念写真を撮り、現場の方々への感謝の気持ちをバスの中から手を振り、トンネルを後にしたところです。

この後、小樽市内の毛無山へ向かう予定でしたが、時間が足りず（トンネル見学が良かった）現場を離れ、札幌へと帰路について、怪我もなく終了、解散となりました。

この見学を終え、来年も違う工夫をし、何かをやっていこうと決意を新たにしたのでした。



◀トンネルの中



記念写真の撮影▶

地域における住教育実践推進業務

建築士による 家庭科住教育出張講座

—— 報告と今後の活動 ——

■ 工藤美智子 ■

支部だより「街」2013. No.1で、紹介させていただいた北海道建設部からの受託事業について、2年間の報告をさせていただきます。授業指導の講師として、又、授業参観者として、多くの札幌支部の皆さんが開催校へと足を運んでくださいました。今回、結果報告の機会をいただきましたので、講座の様子、生徒作品・感想などを記載させていただきます。

H25年度は、旭川凌雲高校3年生1クラス（ライフデザイン科）と白老東高校2年生3クラス（家庭総合）、建築士向けセミナー（札幌市開催16名受講）を開催いたしました。通常授業に講師として参加するという

のは初めてでしたので、かなり緊張して臨みました。近隣高校教諭の授業参観、新聞記事掲載など関心の高いことも分かり、翌年は、開催校を増やし、講師養成講座も開くことになりました。

H26年度は、8校（旭川東栄高校、旭川北高校、石狩翔陽高校、共和高校、平取高校、登別青嶺高校、函館中部高校定時制、函館白百合学園）で「出張講座」を開催し、2地域（釧路市、北見市）で「教諭向け＋建築士向けセミナー」を開催しました。各学校へは、近隣高校教諭と管内支部会員の授業参観も企画いたしました。

講座は通常授業の2校時（110分）を使い、グループ学習です。生徒8名＋講師1名で1グループとしますが、間取り実習は個人作業です。机を向かい合わせグループになることで、わいわい話をしながら、暮らしを考えるのが楽しいと思える雰囲気を作れます。

授業の進め方は、まず、①生活行為と生活空間のつながり ②物のサイズと収納スペース ③出し入れしやすい上下寸法 ④動作寸法・作業動線 ⑤室内環境 ⑥構造的な約束事 ⑦図面記号 ⑧立地条件と周辺環境 ⑨ゾーニング ⑩作業の進め方等をパワーポイントを使い全体講



発表風景



講義風景▶

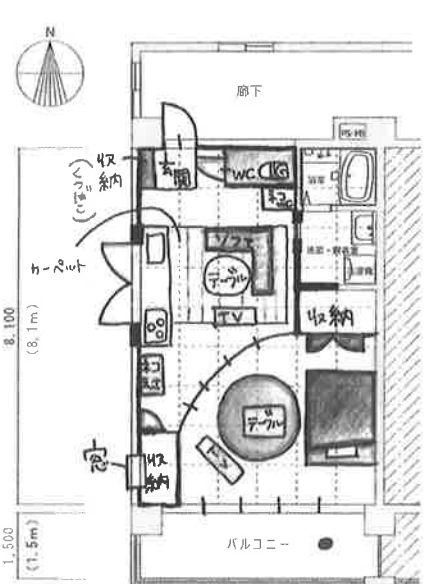


義をします。その後、グループ担当講師の指導で、生徒それぞれに『私らしい住まいの設計～はじめての一人暮らし～』というタイトルでマンションの平面図を作成します。手順は、①周辺環境の異なる3つのマンションから、どこかの何階に住むか ②現在、何歳で何をしているか ③どのように暮らしたいか（こだわりは何か）を考えながらゾーニングを開始します。鉛筆で楕円を描きながら考えるということは、なかなか大変なことのようです。手は楕円を描くだけですが、頭の中ではめまぐるしく色々なことを考えなければいけません。

ひたすら想像することに時間をかけるのは、学校生活の中では少ないようです。又、平面図はS=1/100で用意していますので、スケール感を伝えるのも苦労します。そのために、グループ講師はメジャーを駆使し、体を動かし、生徒にも動作寸法など自分の体で確認させるなど、汗だくです。大体のゾーニングが出来たら、間仕切壁・開口部・家具などを描き（切り貼り）ます。作業の速い生徒は、着色やインテリア用品を描きます。授業の最後に、発表の時間も設けています。グループから1～2名ずつ、作品をデータで取り込み、スクリーンに映して発表します。グループ内での会話や発表を聞くことで、自分の発想がさらに広がり、同じ空間なのに、人それぞれ考え方が異なることを知ります。自分は何が大切で将来どうなりたいのかなど、普段とは違う視点から考えたことを貴重な体験と捉える生徒も多くいました。

とにかく楽しいと思ってもらえて、自分の暮らしに関心を持つきっかけになってほしいと思い、生徒と接しているのですが、表情からは伝わったのかどうか、手ごたえが無いまま

実習作品

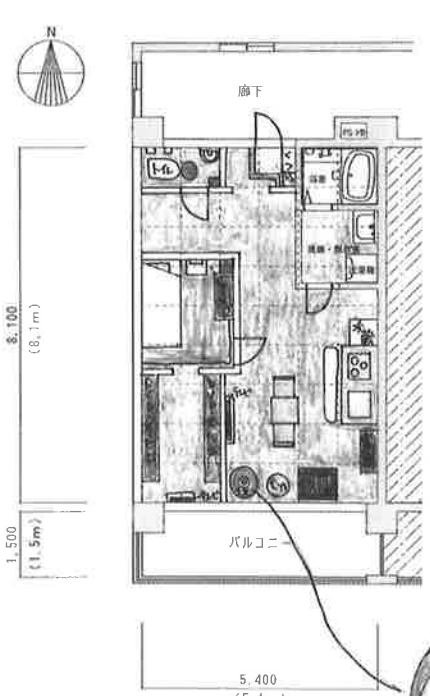


<発表に盛り込むこと>

1. どこに住む? マンション 2 番、15 階
選んだ理由は? 駅から近すぎるとさわがしいのが嫌だ、遠いの嫌だから、銀行も病院も、スーパーもあるから2番にしました。

2. 現在、 20 歳
何をしていますか? (仕事など)
介護士

3. どのように暮らしていますか? (こだわった点は)
猫を2匹、18:30に帰ってくる。

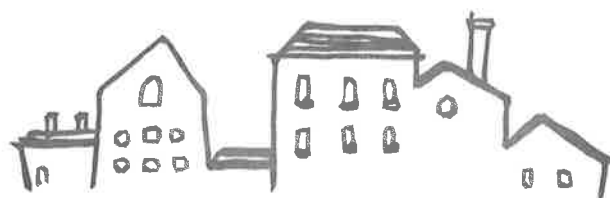


<発表に盛り込むこと>

1. どこに住む? マンション 2 番、 2 階
選んだ理由は? 病院、マンションの設備、エレベーターが便利だから

2. 現在、 25 歳
何をしていますか? (仕事など)
幼稚園、小学生のママ

3. どのように暮らしていますか? (こだわった点は)
仕事は残業時代の友達とも話したいです



授業が終わることもあります。自分のふがいなさに反省したという講師も多いのですが、約2週間後に郵送されてくる生徒作品とアンケートにびっしり書かれた感想を読み感激します。

今後は、札幌近郊の学校でも講座を予定しています。無限の可能性を持った子供たちに、暮らしを考える楽しさを伝えるために、多くの方の参加をお待ちしています。

生徒のアンケートからいくつか紹介します。【実際の部屋の設計をする時に、部屋の大きさ、窓、扉の向きなどを考えるのが大変だった。講師の方の説明で、家具にも高さや奥行きなどが細かく考えられて、作られていることを知ることが出来ました。】【始めてこのような作業をして楽しかった反面、とても苦戦しました。どこに何を置いて、物の配置や部屋の広さを考えて、どうしたら暮らしやすいかを考慮しながら間取りを考えるのが、とても難しかったです。ですが、すごく楽しかったです。自分の将来を想像しながら考え作れたので、とても達成感があります。】【以前から建築士など良いなと思っていたが、自分は数学が出来ないのであ

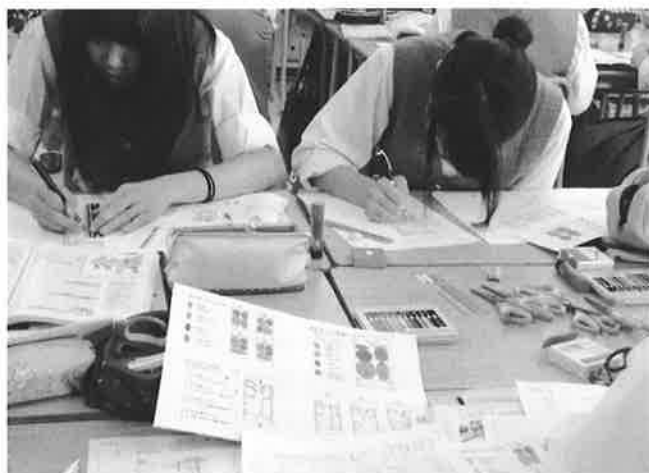
きらめていました。でも、学校でこういう機会をもらって、改めて建築士が良いなと思えたし、とても楽しく良い体験が出来ました。】【今回出張講座を受けて、リビングデザインという授業をとっていても分からないことも沢山聞けて、すごく良かったです。間取りなど模様替えのときにしか意識していなかったのが、今回色々なことを知って、楽しみながら出来たのでとても良かったです。】

【他の人の発表を聞いたときに、「音楽が出来る場所を作っています」という人がいて、細かく考えているんだなと思いました。そのほかにも自分が住みやすいように、色々な人

が様々な工夫をしていて、聞いていて楽しかったです。】【自分は将来建築士になりたいと思っていたので、直接専門家の方々の話を聞きながら平面図を作れて、すごく為になった。自分の将来の職業について再確認することが出来た。】【自分のお父さんがこんな大変な仕事をしているんだと思って、すごいと思いました。家は、何をテーマにして作るかが大切だと思いました。私の今回の家のテーマは、“趣味を楽しむ”だったので好きなものを好きなだけ取り入れました。いつかこんな家を作って建築士のお父さんを驚かせてみたいです。とても楽しい授業でした。】



実習風景



追悼
メッセージ

宮本澄子さんの思い出



あえて澄ちゃんといいますが、彼女の思い出は他の方もそうでしょうが、お酒に絡むことが多くあります。強烈に覚えているのが20年以上前のことです。宴会の後の3次会でそばを食べたいとだだをこねた「そば事件」。まだ、若かりし澄ちゃんでした。

でも私が支部長の時、それまで市役所の2階にあった事務局を緑苑ビルに移転しました。経費削減のため澄ちゃんの給与も減らしてもらいました。二人体制から一人体制になり…業務の仕方も大幅に変わり、大変な時期を総務委員会の皆さんの協力も得て、乗り切っていただき感謝しています。天国で大好きなビールを飲みながら待っていて下さい。合掌。

山崎 清司

委員会に参加したその日から本当にお世話になりました。

明るくて、寂しがり屋で、一寸だけ手間の掛かる人でした。ご冥福をお祈りします。

内海 純一

澄ちゃんに捧ぐ

稚拙な歌ながら、市役所時代の思い出と緑苑ビル時代の支部事務局を務めた最後の6年間の思い出とともに、今は亡き澄ちゃんに捧げたいと思います。

<青春を 支部とともにし 君のため

安らかなれと 祈る日々かな>

元事務局局長 三浦 豊

同じ高校の後輩だということで、会に入って間もない私をしもべだと茶化し温かく迎え入れてくれました。土会のことも親身に教えてくれ、お酒の席では陽気に付き合ってくれました。そのうちまた会いましょう。

西岡

澄子お姉さま、大変お世話になりました。また、お酒や浮き球野球等々

今思い起こすとあの明るい笑顔と快活なお話しぶりにもう接することが出来ないのかと残念でなりません。どうぞゆっくりお休み下さい！

池田

宮本さんへ

ビールパーティなどでお会いする時のいつも元気で明るい姿が思い出されます。

私が知っているずっと前から建築士会を支えて下さっていたと思います。お世話になりました。心からお悔やみ申し上げます。

多田 幸

いつも青年のことを気にかけて頂き「青年の事は私が守る！」と言って下さり、本当に心強く感じておりました。安らかに休息下さい。ありがとうございました！

松本 純

故 宮本澄子さまへの追悼文

宮本さんには、青年委員会に入った時から30年近くお世話になりました。我儘な所もありましたが会員の皆さまには可愛がられていたと思います。ご冥福をお祈りします。

牛田 健一

確認申請が下り、事務局で表示板にピンクのスタンプを押してもらった、やれやれと一安心したものです。電話の声で誰だかわかるという、スーパー事務局員は本当に頼りになる存在でした。今年は叶いませんでしたが、毎年恒例の「納涼会」にも参加していただきありがとうございました。ちょっとハスキーで甘ったれの声は忘れませんよ。

ひがし

宮本さんへの追悼メッセージ

澄ちゃん、おやじは何かとお世話になり感謝の気持ちでいっぱいです。建築士会へ入会して、早々の出会い。当時はなかなかのお姉さんでした。そ

の後、活動への助言や苦言が有り、おやじも成長してきました。個人的にも、いろいろな物を頂きました。ありがとうございます。公私ともに、お付き合いをさせて頂き感謝しております。貴方がお亡くなりになりましたその日は交流委員会で、澄ちゃんの話になり、盛り上がっていたところです。(亡くなったことは知りませんでした)安らかに、天国へお召しください。

おやじ(佐々木正行)

ビール好きのすみちゃん。よく飲みましたね。よく笑いましたね。よく泣きましたね。

たまにブイと怒って帰りましたね。みんな心配しましたよ。ゆっくりお休み下さい…

新藤 紀彦

青年委員長を務め、悩んでいたころ、いつも優しく、そしていつも味方になってくださって、とても励みになったことを思い出します。

宮本さん、本当にありがとうございました。そして、ゆっくりとお休みになってください。

針ヶ谷拓己

まだ現実とは思えないです。携帯にはメールが沢山残っています。「今、山本さんとグラ富士で飲み始めました。柳はどこかで飲み会かい?」「待ってるよ〜ん」そんなメールが今にも来そうです。今は大好きなお父さんと仲良くビールを飲んでいるんでしょうね。楽しい思い出をいっぱいありがとう。

柳山美保子

「澄ねえ」で思い出すのは、やっぱりあの笑顔。わがままもしょっちゅうだったけど、そんなところもかわい人でした。今も天国でクラシック飲みながら笑ってるのかな…

森田ゆう子

≡ 新入会員紹介 ≡

佐々木一男	ササキ建築設計室
高橋 稔	札幌市役所 都市局
七戸 正秋	(株)しちけん
兼田 慎也	(株)丸三 ホクシン建設
小林 大介	(株)丸三 ホクシン建設
榊 卓也	宏栄建設(株)
清水 徹	宏栄建設(株)
渋谷 智美	(株)構建設計事務所
工藤 直樹	北海道建築設計監理(株)
鈴木 寛	(株)鈴木東建
鈴木 寛之	(株)鈴木東建
富谷 洋介	富谷洋介建築設計
十河 昌司	(株)岩見田・設計
鈴木さとみ	(株)岩見田・設計
太田 浩之	(株)岩見田・設計
成田 博	(株)岩見田・設計
阿部 和彦	(株)岩見田・設計
今川 浩幸	(株)岩見田・設計
糸賀 大介	(株)糸賀建築コンサルタ ント事務所
佐久間洋子	
米谷 亨太	丸彦渡辺建設(株)
前田 浩一	(株)中山組
高谷 高	リライアンス(株)

≡ 編集後記 ≡

今回の『街』はいつも以上に話題が多く内容たっぷりの編集となりました。

恒例となった「景観バスツアー」や「青年のページ」などに加え今回は札幌支部として参加した「札幌資料館リノベーションアイデアコンペ」が見ものです。斬新なアイデアで提案書のクオリティーにも力を入れていますので是非ご覧下さい。最後のコーナーは「家庭科住教育出張講座」ですが高校に出向いての出張講座に参加した高校生のアンケートに「建築士になりたい」と書いてくれているのはとてもうれしく思いました。

(情報委員 片岡哲二)

支部だより「街」

2016.No.1

平成27年1月発行

発行一般社団法人北海道建築士会札幌支部

〒060-0042 札幌市中央区

大通西5丁目11番地 大五ビル6F

TEL (011) 232-1843

FAX (011) 222-0924

情報委員会

委員長／森田ゆう子

副委員長／宮川 耕介 柳山美保子

委員／内海 純一 安達あけみ

那須 豊治 首藤 一弘

星野 里英 爪林 雅行

岩浪 次郎 川原 昌彦

後藤 朋恵 片岡 哲二

印刷—中西印刷株式会社

〒007-0823 札幌市東区東雁来

3条1丁目1-34

TEL (011) 781-7501

FAX (011) 781-7516